アグレッシブ クライアント ロード バランシング

- アグレッシブ クライアント ロード バランシングの設定について （1 ページ）
- アグレッシブ クライアント ロード バランシングの設定（GUI） （2 ページ）
- アグレッシブ クライアント ロード バランシングの設定（CLI） （3 ページ）

アグレッシブ クライアント ロード バランシングの設定について

シスコ ワイヤレス コントローラでアグレッシブ ロード バランシングを有効にすると、ワイヤレス クライアントの負荷を Lightweight アクセス ポイント間で分散することができます。

ワイヤレス クライアントが Lightweight アクセス ポイントへのアソシエートを試みると、アソシエートされた応答パケットとともに 802.11 応答パケットがクライアントに送信されます。この 802.11 応答パケットの中にステータス コード 17 があります。このコード 17 は AP がビジー状態であることを示します。AP のしきい値に達成しなければ、AP からは「success」を示す応答は返りません。AP 使用率のしきい値を超えると、コード 17（AP ビジー）が返り、処理能力に余裕がある別の AP がクライアント要求を受け取ります。

たとえば、AP1 上のクライアント数が、AP2 のクライアント数とロード バランシング ウィンドウを上回っている場合は、AP1 の負荷は AP2 よりも高いと判断されます。クライアントは、AP1 にアソシエートしようとするときに、ステータス コード 17 が含まれている 802.11 応答パケットを受け取ります。アクセス ポイントの負荷が高いことがこのステータス コードからわかるので、クライアントは別のアクセス ポイントへのアソシエーションを試みます。

コントローラは、クライアントアソシエーションを 10 回まで拒否するように設定できます（クライアントがアソシエーションを 11 回試みた場合、11 回目の試行時にアソシエーションが許可されます）。また、特定の WLAN 上でロード バランシングを有効にするか、無効にするかも指定できます。これは、特定のクライアント グループ（遅延に敏感な音声クライアントなど）に対してロード バランシングを無効にする場合に便利です。

（注） 300 ミリ秒を超えて遅延を設定すると、音声クライアントは認証しません。これを避けるには、中央認証（Cisco Centralized Key Management（CCKM）による WLAN のローカルスイッチング）を設定し、AP と WLC 間に遅延 600 ms（UP と DOWN それぞれ 300 ms）の pagent ルータを設定して、音声クライアントのアソシエートを試みます。

（注） FlexConnect AP の場合は、アソシエーションがローカルに処理されます。ロードバランシングの判断は、Cisco WLC で行われます。FlexConnect AP は、Cisco WLC の計算結果を確認する前に、最初の応答をクライアントに返します。FlexConnect AP がスタンドアロン モードの場合は、ロード バランシングが適用されません。

FlexConnect AP は、ローカル モードの AP と同様のロード バランシング用のステータス 17 で（再）アソシエーション応答を送信しません。代わりに、ステータス 0（成功）で（再）アソシエーションを送信してから、理由 5 で認証解除を送信します。

アグレッシブ クライアント ロード バランシングの設定（GUI）

手順

ステップ 1 [Configuration] > [Wireless] > [WLANs] > [Wireless Networks] の順に選択します。

ステップ 2 [WLAN] を選択して、[Edit WLAN] ウィンドウを表示します。

ステップ 3 [Advanced] タブをクリックします。

ステップ 4 [Load Balance] チェックボックスをオンにして機能を有効にします。

ステップ 5 [Update & Apply to Device] をクリックします。

アグレッシブ クライアント ロード バランシングの設定（CLI）

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	**enable** 例： `Device# enable`	特権 EXEC モードを開始します。
ステップ 2	**configure terminal** 例： `Device # configure terminal`	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	**wlan** *wlan-name* 例： `Device (config)# wlan test-wlan`	*wlan-name* には WLAN 名を入力します。
ステップ 4	**shutdown** 例： `Device (config-wlan)# shutdown`	WLAN をディセーブルにします。
ステップ 5	**load-balance** 例： `Device (config-wlan) # load-balance`	特定の WLAN へのクライアント ロードバランスを有効にするために、ゲスト コントローラをモビリティ コントローラとして設定します。 WLAN の要件として WLAN のセキュリティ設定を設定します。
ステップ 6	**no shutdown** 例： `Device (config-wlan)# no shutdown`	WLAN を有効にします。
ステップ 7	**end** 例： `Device(config)# end`	特権 EXEC モードに戻ります。また、Ctrl+Z キーを押しても、グローバル コンフィギュレーションモードを終了できます。
ステップ 8	**configure terminal** 例： `Device # configure terminal`	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 9	**wireless load-balancing window** *number-of-clients(0-20)* 例： `Device (config) # wireless load-balancing window 2`	クライアント数を [Aggressive Load Balancing] ウィンドウで設定します。
ステップ 10	**wireless load-balancing denial** *load-balancing-denial-count(1-10)* 例： `Device (config) # wireless load-balancing denial 5`	ロードバランシングのクライアント拒否回数を設定します。ロードバランシングの拒否回数を入力します。
ステップ 11	**end** 例： `Device (config-wlan) # end`	特権 EXEC モードに戻ります。
ステップ 12	**show running-config | section** *wlan-name* 例： `Device# show running-config | section test-wlan`	現在の設定のフィルタリングされたセクションを表示します。